

## 5 その他の事例 ～ペリスティーンに関すること～

### 発生時の状況と経過

二分脊椎の児童は、水泳授業時に便が漏れないようペリスティーンを挿入している。授業後に看護師が抜去しようとしたところ、抜去するための紐が見あたらなかった。肛門を少し開いて見たところ、中に紐が入り込んでいた。

### 発生時の対応と処置

肛門内に紐の端が見えたため、紐の端を引き出し取り出した。

### 考えられる原因や背景

昨年度は排便しないままペリスティーンを挿入していたが、今年度は排便後に挿入しており、ペリスティーン自体が肛門内で動きやすい状況だったと考えられる。また、括約筋が弱いため、折りたたんでおいた紐が入りやすかったとも考えられる。

更に、昨年度よりも水泳時の動きが活発になり、バタ足をすることで紐が動いてしまったことも考えられる。

### 再発防止に向けた対策・改善点

- ・紐を抜けない程度の長さに調整して伸ばし、臀部にテープで貼りつけて対応した。
- ・担任が授業の途中でテープが剥がれていないか、紐が肛門に入り込んでいないかを確認した。入っていた場合、授業を中断し、看護師が対応することとした。
- ・保護者を通じて、主治医に状況説明と対応の確認をしてもらった。指示書に、ペリスティーンが肛門内に入った際の対応について、摘便の方法で取り出す追加の指示をいただいた。

### ポイント！

○便は内側から外側に排出されるものであり、腸はうねっているため、ペリスティーンが腸の上に行くことはない。摘便の方法で取り出してもらえばよい。(主治医)

○いろいろな場合を想定し、対策を考えておきましょう。